

地域に貢献するものづくり教育

佐賀県立塩田工業高等学校建築科 森永 一男

1. はじめに



佐賀県立塩田工業高等学校は佐賀県の西側に位置し、東京オリンピックが開催された昭和39年に設立された。今年度で54年を迎える伝統ある工業高校である。

学科は、機械科、電気科、情報技術科、建築科の4学科をもち、それぞれの分野で、本校の教育目標である「ものづくりを通じた人づくり」を基本とし、工業人としての知識・技能を習得するとともにコミュニケーション能力や職業倫理などを養い、社会や企業に貢献できる人材の育成に努めている。平成30年度に近隣にある総合学科の高校と統廃合し新高校になるが、機械科・電気科・建築科は残り、現在も準備が進められている。

また、本校卒業生からは現代の名工ともいわ

れる技能者が平成27年度に2名選ばれ、昨年度、今年度と黄綬褒章も2名受賞している。わが国のみならず、海外の産業界でも活躍する優秀な人材を輩出し、企業からの信頼を得て、昨年度、一昨年度と1,000件を超える求人を受けている。

2. 地元建築士との学習会

佐賀県建築士会鹿島支部主催で、地元建築士の協力により、「建築士と塩田工高生との学習会」が毎年建築の日に合わせて、7月に開催されている。本校校舎近隣の町並みに重要伝統的建築物群保存地区に選定されている肥前塩田津がある。塩田津は長崎街道の宿場町と港町として、宿場としての機能と物資流通の大動脈として発達していた経緯もあり、現在も研究や調査の対象として町並みを訪れる研究生や観光客など人通りの多い場所である。

はじめに、肥前塩田津の変遷や港宿町独自の建築様式などの講義を聴いた後、実際にそれらの建築物を見学して、県重要文化材に指定されている西岡家住宅やその室内を見せて頂いた。また、その他の町家には、跳ね上げ式の戸が街道沿いの入り口に設けられている建物(写真1)などの建築物について、地元建築士の方々から説明された。

最後に地元左官業より、土壁の下地に用いる真竹を割り縄で縛る体験と、藁を混ぜて土を作りコテを用いて土壁塗り体験をさせてもらい、実際に工事を行う一連の流れで、実技指導をして頂いた。(写真2)



写真1



写真2

3. 運動公園ベンチ贈呈

地元である谷所老人クラブから、運動公園に背もたれ付き木製ベンチが欲しいと依頼があり、本校建築研究部（顧問：中村浩二）がデザインから製作まで生徒と利用者の間で交渉を重ね、2ヶ月間をかけて4脚の背もたれ付き木製ベンチを完成させた。(写真3)

木製ベンチはグラウンドに設置し、長期間の外での利用を考慮しておられたため防食のための塗装も施した。

8月に搬出し設置作業を行うときに谷所老人クラブの方々より贈呈式も企画して頂き、贈呈式には、地元ケーブルテレビに取材して頂いた。(写真4)



写真3



写真4

4. 文化祭（塩工祭）

本校文化祭（塩工祭）は毎年10月中旬の日曜日に開催しており、近隣の小・中学生を対象として、無料で「ものづくり体験イベント」を開いている。

5種類のパズル型枠から、年齢に応じて製作の難易度を選べる糸鋸を使った動物パズルや、小学校低学年用に簡単に製作できる鍋敷き（写真5）、ガスバーナーを使用しての焼杉体験（写真6）や、杉や桧のかんな体験を建築科の生徒が安全性を重視しながら製作補助を行い、ものづくりを体験させた。保護者にも安心して製作を見て頂き大盛況であった。



写真5



写真6

5. 佐賀県高校生産業育成フェア

8月に佐賀県総合体育館において「SAGA ものすごフェスタ」が開催された。同会場で行われ、各専門高校が集まった「佐賀県高校生産業教育フェア」に参加した。

県内工業高校ブースにも体験コーナーが設置され、本校も機械科、電気科、情報技術科、建築科の4科が参加させて頂いた。

機械科は生徒が旋盤で製作したコマで遊び、電気科は電磁誘導装置を使つての実験、情報技術科はレゴを使つてのロボット体験、建築科は組み木コースターの製作体験を行った(写真7)。

組み木コースターは、実習で用いた廃材を利用し、12個の平行四辺形（長さ12cm、厚さ4mm）の木片を接着剤で貼り付けて六角形の

組み木にしたもので、小学生でも簡単に製作でき、幼児でも保護者と一緒に製作できるもの考えた。当日は、約100個の組み木コースターを親子で楽しみながら製作し、各自持ち帰ってもらった。後の10月、11月に行われた「嬉野市文化祭」や「鹿島市ものづくり体験」等の周辺地域自治体主催の文化祭においても、生徒主体で製作指導することで参加させて頂いた。(写真8)



写真7



写真8

6. 近隣小学校への小高連携授業(出前授業)

本校近隣には3校(久間小、塩田小、五町田小)の小学校があり、小学校高学年(5・6年生)を対象に、高校生がものづくり体験授業を行い、ものづくりや工業高校について身近に感じてもらうために、全4回の小高連携授業(出前授業)を行っている。

建築科では6年生対象にスチレンボードを用いて、平屋建て住宅の意匠模型製作(写真9)を行った。また、5年生対象にかな削り体験と、折り紙建築(写真10)を準備から製作まで生徒たちが考えた。

6年生対象の意匠模型製作では、90分の時間で児童がスムーズに完成できるように、個々における進度の差を極力縮めるために、制作ボリュームを放課後等の時間を使って考え、最終的に片流れ屋根で外壁開口部や屋根のカッティングなど準備を緻密に行って臨んだ。小学生ということもあり、最初の授業では初めての経験ということから、緊張もあって間仕切り壁や開口部等の切断に手間取るが多かったが、終了

後に生徒たちで話し合い、製作工程をブラッシュアップしていき授業の回を重ねるごとにスムーズな流れを重視し指導の向上を垣間見ることができた。



写真9



写真10

7. 地元企業による外部講師

1年生は内装仕上げ(写真11)、2年生は鉄筋加工(写真12)について、実習の授業を利用し年1回外部講師を招聘している。2級技能士実技試験を題材に、佐賀県職業能力開発協会技能振興コーナーを通して依頼し、地元企業数社から講師を派遣して頂き講義を行っている。

地元企業には本校卒業生も多く就職しており、自身の体験をもとに学生時代の過ごし方から技能者としての心構えを本校卒業生としての目線で話を頂くことができる。また、この外部講師による授業を行うことにより、県内建設業就職を希望する生徒の増加を促していると思われる。



写真11



写真12

8. 新幹線開業にともなうまちづくりプランへの連携授業

平成34年度九州新幹線西九州ルート長崎本線開業にともない、新嬉野駅周辺のまちづくりプランの参考にするため、嬉野市役所をはじめ関係各所より講師・コーディネーターとして来校して頂き意見交換会が行われた。

新嬉野駅予定地周辺の概要と、新幹線を活かしたまちづくりの基本的な考え方を講義して頂き、その後、高校生の若い考え方を参考にしたいということで、駅周辺の施設・設備などのハード面と地域振興・交流などのソフト面についてのグループディスカッションを企画して頂いた。身近な公共施設における実際のプロジェクトに触れ、自ら考え発表できたことは貴重な体験になったと思われる。(写真13, 14)



写真13

写真14

9. 地域貢献ベンチ贈呈式

2年生の実習パートにおいて、ものづくりコンテストで練習した廃材を材料として再利用した木製ベンチの製作に取り組んでいる。

学校近隣の住民に利用して頂くために、毎年15～20脚ほど自治体や塩田津まちなみ保存会などのNPO法人に寄贈している。昨年度は、嬉野市社会文化会館（リバティ）へ13脚、吉

田公民館へ2脚の寄贈のための贈呈式を行った。贈呈式には嬉野市長をはじめ多数の関係者にも出席して頂き、新聞社とケーブルテレビに取材もして頂いた。(写真15, 16)



写真15

写真16

10. おわりに

その他にも地域貢献活動として、課題研究においては近隣の公園で長椅子修繕などの営繕活動や、熊本震災で被災された益城町仮設住居に住まれている方々へ遊具やベンチの贈呈を行っている。

1年間の本校の教育活動を振り返り、ものづくりを通して社会に少しでも貢献できる学習を行うことで、普段の授業とは違った視点で新たなものづくりを考えることができると思われる。

本校建築科の生徒は卒業後、建設業をはじめ企業への就職が9割を超えている。本校で学んだことを少しでも思い出し、社会に貢献できるものづくりを実践していくことを願っている。今後もこれらの教育活動を通して地域との連携をはかり、学校全体の活動として地域貢献していきたい。

工業教育資料 通巻第374号
(7月号)

2017年7月5日 印刷
2017年7月10日 発行
印刷所 株式会社インフォレスト

© 編集発行 実教出版株式会社
代表者 戸塚雄式
〒102 東京都千代田区五番町5番地
- 8377 電話 03-3238-7777
<http://www.jikkyo.co.jp/>